

## 「望ましい学校事務の未来像を求めて」

～ 学校事務改善をめざした共同実践の展開～

福島県公立小中学校学校事務研究協議会 研修委員会・研究委員会

第26回福島県公立小中学校学校事務研究大会喜多方大会の開催にあたり、今大会のねらいと課題について提起いたします。

福島県公立小中学校学校事務研究大会は、県内の学校事務担当者が一堂に会し、お互いに学び合う場として、昭和53年に相馬市で開催されて以来、第26回大会を喜多方市で開催することができました。

21世紀に入り、様々な教育行政の転換期を迎えています。社会情勢の変化や価値観の多様化などにより、教育の主体性や積極的な対応が求められ「特色ある学校」「開かれた学校」づくりを推進するための教育改革が急ピッチで進められています。学校事務職員が、公立小中学校に配置されて半世紀が過ぎ、子どもや保護者、地域からの教育条件整備への多様な要求に答えるため、私達も「自己の意識改革」を進めなければなりません。

さて、本年度より学校事務職員の研修が、「ふくしま自治研修センター」でスタートしました。この研修制度は、「学校現場における行政的立場の職員として、公務員としての総合的な資質を高めるための研修」として職務遂行能力の充実が期待されます。さらに、学校管理規則の整備や情報公開への対応、学校評議員や学校評価制度等学校事務を取り巻く状況の変化に対応し、学校事務職員の専門性を高めるための事務研活動を更に推進していく必要があると捉えております。

これらのことをふまえ、第26回喜多方大会では学校事務職員が「教育活動をいかに支援していくか」を中心に協議したいと考えます。4年次を迎えるサブテーマ「学校事務の改善をめざした共同実践の展開」の研究を深め、実践に取り組んでいくために分科会や全体会を設定しました。

分科会並びに全体会は

学校教育を支援するための自らの力量を高めるための学習の場であること。

積極的な学校経営参画のため、学校事務の創造をはかること。

この2つの目的意識を持ち、「自己を高めるため」の話し合いを深めていきます。

また、個人やグループで研究したものをいかに日常の職務に結びつけるか、そのための展開を校内では他職種との共同実践を通して、地区や県事務研においては教育委員会や校長会・教頭会等との連携を積極的に進めるための方策を協議します。地域に開かれた学校をめざす学校経営に、学校事務職員が積極的に参画していくためには、私達の資質や能力をどう高めていかなければならないのか。その具体的な研修・研究・実践のあり方などを探り、研究協議に参加願いたいと思います。

現在、県事務研研究委員会が中心となり、平成18年度から実施予定の「第四次長期研修計画」策定の検討が急ピッチで進められています。学校教育を取り巻く社会の変化に対応し、学校事務や学校事務職員に求められることを達成するためにはどうしなければならないのか。学校事務職員の力量を高め開かれた学校を推進するため、「コーディネーター」「ゼネラリスト」「シンクタンクの一翼」を担えるための研修計画とするためにはどうあればよいか。大会に参加する会員とともに話し合いを進めていきます。変革の時代にあって、これまで積み重ねてきた成果から普遍的なものを見だし、更に伸ばしていけるような研究の実践や方向性を示すことができるように期待します。

## 第1分科会

「子どもの学びを支援する学校経営事務をめざして」

～第四次長期研修計画策定にむけて～

学校を取り巻く環境がめまぐるしく変化している今日、学校はそれぞれの自主性・自律性を発揮しながら子どもたちが主体となって学習できる学校づくりに取り組んでいます。学校事務もオンライン化やペーパーレス・ネットワークの発達による情報の共有化等が進み、私たち学校事務職員も時代に即応した知識や技能の習得が急がれています。

県事務研では、平成18年度よりの第四次長期研修計画を策定するにあたり研究委員会で原案を検討しております。第1分科会では子どもの学びを支援する学校経営事務というテーマから、これからの学校に求められる学校事務のありかたと学校事務職員に求められることを設定し、それに到達するために必要となる資質向上の研修と、自己の意識改革を推進するための手だてを第四次長期研修計画(前期)の基本構想(案)として提示します。

以下の視点でのご意見や感想を期待します。

- 1 これからの学校事務や学校事務職員に求められることの目標設定と方向性の確認について
- 2 時代に即した知識技能の習得や、自己意識改革をするための方策、専門性を高めるための研修はどうあればよいか
- 3 事務研活動による自主研修のありかたはどうあればよいか

## 第2分科会

「みんなで考えよう！学校の接遇」

～「教職員のための接遇・マナー集」の作成を通して～

「開かれた学校」が求められている今、「行きにくい」学校から「親しまれる学校」に変わっていくためにはどうあればよいのでしょうか。施設の開放というハード面はもちろん情報公開などのソフト面での対応も重要になってくるでしょう。そして教職員の接遇のあり方もその一端を担うのではないかと考えます。

各校の現状把握から、学校で活用できる資料として「教職員のための接遇・マナー集」を作成しました。その取り組みを通して学校事務職員の役割を考えた発表です。まだ初歩の段階ですが、これからの研修・研究に役立てたいと思います。

次のような視点から研究協議をお願いします。

- 1 各校での教職員の接遇の現状、問題点について
- 2 「教職員のための接遇・マナー集」の果たす役割について
- 3 「開かれた学校」に対応するための事務職員の役割について

## 第3分科会

「事務研の充実と活性化をめざして」

いわき市事務研では、年2回の研修会を行っています。学校事務職員の仕事は、一般行政機関と違い、間口が広く広範囲な事務を取り扱っています。私たちが校務分掌及び職責を果たすためには、学校事務職員がそれらを受け入れるだけの能力を常に持ち続け、さらにそのための能力開発を目指さなければなりません。

今回の研究発表は、これまでのいわき市事務研の成果の上に、今後の研修のあり方について少しでも役立つことを目的としています。「事務改善」に向けた自己研修とその実践報告や「事務改善」の共同実践と研修成果の共有化を目指します。

次の視点で研究協議を期待します。

- 1 事務改善の手法、事務をめぐる知識の必要性とその情報交換について
- 2 学校事務職員研修のあり方

#### 第4分科会

「学校教育に作用できる財務担当者をめざして」

これまで私たちは学校事務職員だけで、学校事務を研究することが多かったと感じています。しかし、学校事務の果たす役割が「きめ細やかな教育活動への支援」と捉えると、学校事務職員だけにとどまらず教員や保護者・地域、教育委員会等と共働して子供達の学びを支援しなければ目的を達成することは困難ではないでしょうか。

今回双葉郡事務研では、教員や地教委と財務分野を中心とした共同実践をテーマに研究を進めました。校内で他職種との共同実践、地教委との共同実践、総合的な学習の時間に係わる共同実践との3つの柱を視点として、それぞれの観点から学校事務職員が財務とどう関わったら良いかを考え実践を重ねました。

財務事務を通して、学校教育に参画できる学校事務職員を目指すためにはどのようにあればよいかを中心に協議を深めたいと考えます。

以下の視点から実践活動を通じた研究協議をお願いします。

- 1 事務要覧の作成と活用を通じた財務事務の周知方法について
- 2 教育委員会と連携し備品管理を中心とした事務の効率化について
- 3 総合的な学習の時間に必要な予算のあり方を通しての関わり方について

#### 第5分科会

「『教育課程編成と学校会計』の課題」

～公費・私費負担区分の試み～

福島地区事務研研究部は平成8年度から「情報公開を前提とした学校徴収金のあり方」について研究を深めてきました。平成13年度の棚倉大会でもみなさんから多くの貴重な意見をいただきました。これらを参考に会計処理マニュアルの検討を進め、昨年「学校会計ハンドブック」として会計処理マニュアルを会員に配布することができました。ようやく学校予算に関する研究の基本的条件がそろったこととなります。

今回の発表では、会計見直しの実践を紹介しながら、教育課程の編成と予算編成の課題を明らかにしていきます。

実践発表に続いて次のような視点での研究協議を期待します。

- 1 「学校会計ハンドブック」作成を通じた会員の意識改革
- 2 公費と私費の負担区分
- 3 保護者と進めた学校会計の統廃合
- 4 総合的な学習を保证する予算編成の対応

#### 全体会

「カリキュラム経営のスタッフをめざそう」

今進められている教育改革の考え方の中心には「特色ある学校づくり」があります。子どもたちの「生きる力」の着実な育成を図るため、自校の教育課程の編成と実施並びに学校予算の執行が連動しなければその目的達成はできないと考えます。この実現に向けて学校事務職員は、校長の考える教育課程経営に関わるスタッフとしての資質や能力を高める必要があります。

「学校事務職員の最大の使命はカリキュラム経営のスタッフになることである」との、学校教育を中心に据えた学校事務を唱え、福島大学教育学部附属教育実践総合センターにおいて「学校事務職員研修講座」を企画してくださった宮前先生の講話をいただきます。先生の講話から学校事務職員の果たすべき役割を再確認するとともに、「自己の意識改革」を図っていただきたいと思います。